

AutoCAD 2010 機能ガイド

ユーザ インタフェース



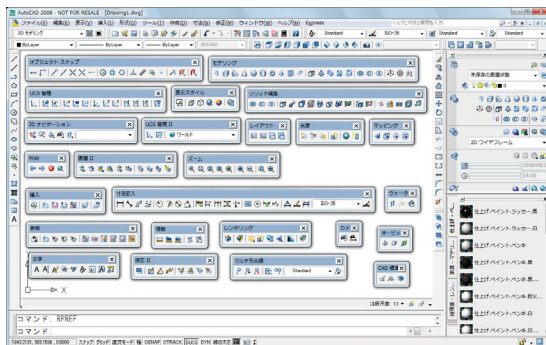
はじめに

AutoCAD が Windows に対応して以降、プルダウンメニューやツールバー、ダッシュボード や ツールパレットといったユーザ インタフェースの改良、発展させてきました。ただし、AutoCAD を使いなれた設計者には問題がなくても、AutoCAD を初めて操作する初心者には、いくぶん分かりにくい部分がありました。

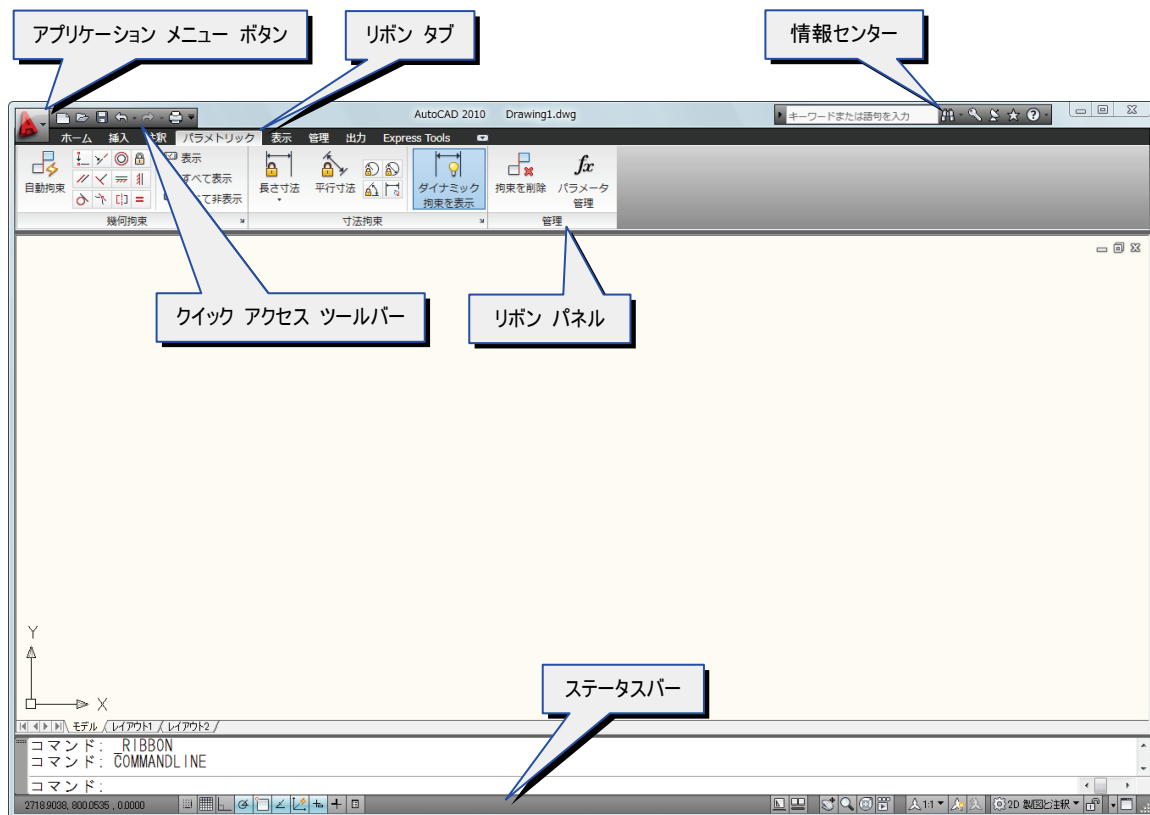
たとえば、どこにしたいコマンドがあるのか、どこを探せばコマンドを見つけられるのか、プルダウンメニューやツールバー ボタンなどのユーザ インタフェースを探しまわる必要がでてきます。

ある意味では、ユーザ インタフェースを使いこなすために、慣れ が必要だったと言えるかもしれません。

古典的なユーザ インタフェースを使い続ける限り、この原則は大きく変わらないはずで

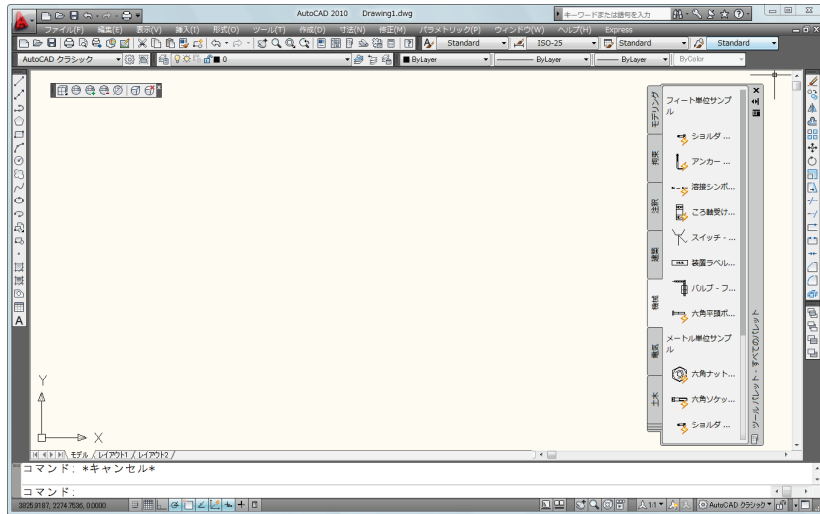


AutoCAD 2009 からは、その操作性を改善するためにユーザ インタフェースを大きく改良して、最新バージョンの AutoCAD 2010 に引き継いでいます。新しいインタフェースでは、設計フェーズの手順や目的に沿って利用したいコマンドを見つけられるように、アプリケーション メニュー、リボン、クイック アクセス ツールバー、クイック レイアウト、クイック図面、ステータスバー ボタン などが追加、改良されています。もちろん、カスタマイズ性も失っていません。

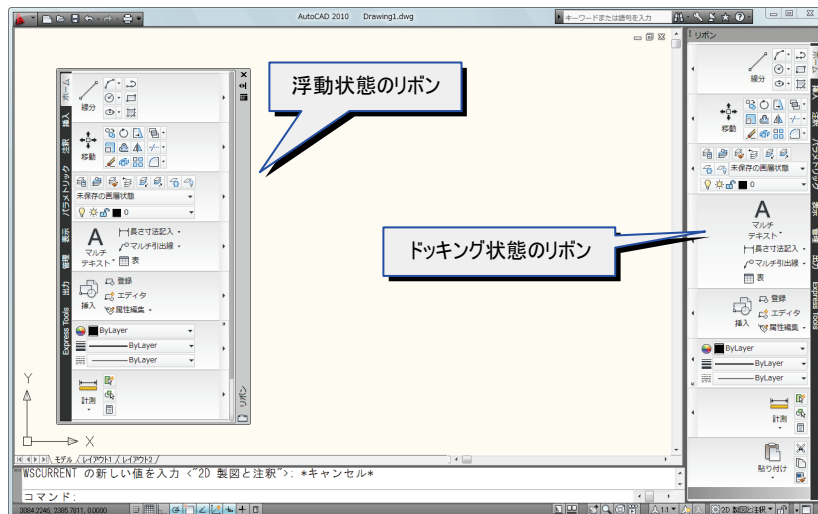




AutoCAD 2010 でも、従来のメニュー構成を利用することができます。あらかじめ用意されている [AutoCAD クラシック] ワークスペースを呼び出せば、プルダウンメニューやツールバーをそのまま使用することが可能です。



AutoCAD 2007 で採用された ダッシュボード は、AutoCAD 2009 から リボン に置き換わっています。リボンは 縦にドッキングさせることもできるので、ダッシュボードと同じような操作感で利用することができます。

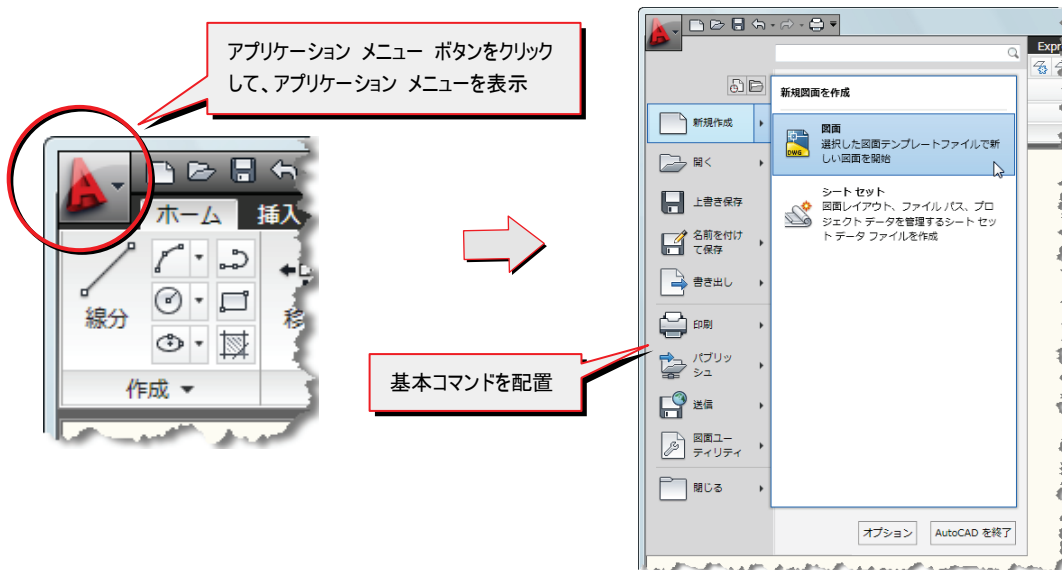


AutoCAD 2010 には旧バージョンで作成したメニュー(.mnu、.mns、.cui) を最新の .cuix ファイルに変換する機能を持っています。また、AutoCAD 2008 で定義した独自のダッシュボードをリボンに変換することもできます。

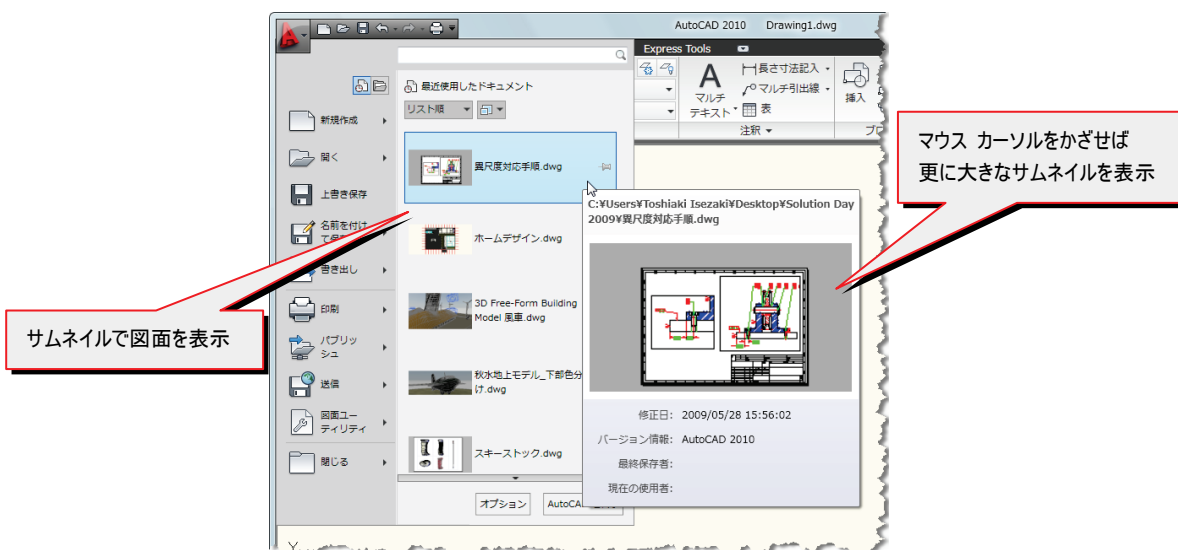
ユーザ インタフェースを理解する

アプリケーション メニュー

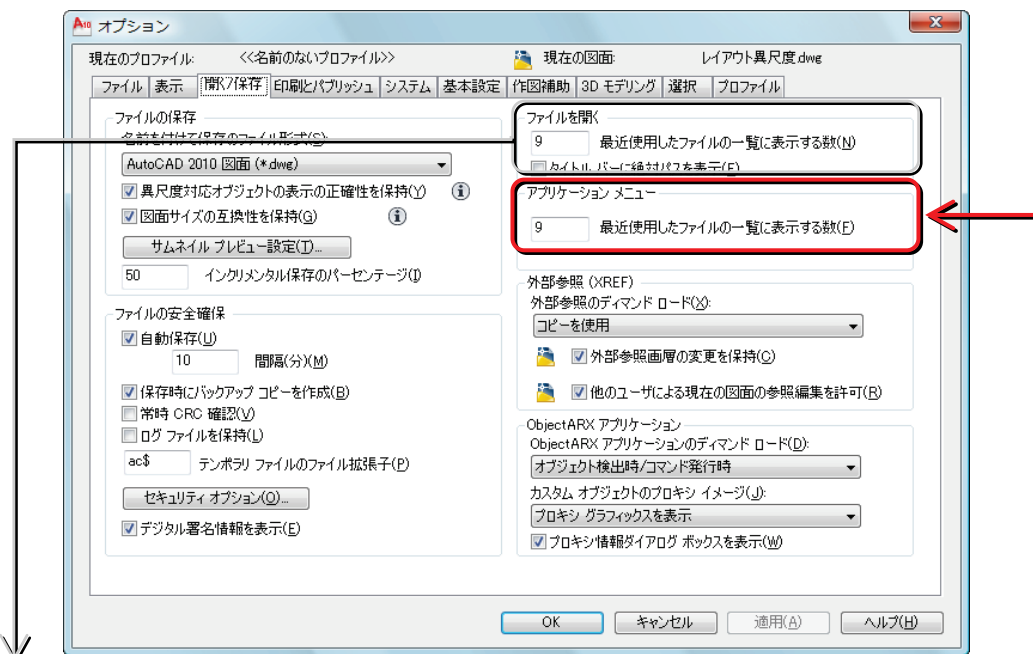
アプリケーション メニューは、AutoCAD ウィンドウの左上に配置されている アプリケーション メニュー ボタンをクリックすることで表示されます。表示されたアプリケーション メニューには、図面の新規作成や既存図面を開く、印刷などの基本的なコマンドが配置されています。



アプリケーション メニューには、図面を開く際に便利な機能があります。[最近使用したドキュメント]、[開いているドキュメント] ボタンをクリックすることで、図面のプレビュー イメージ(サムネイル) を使って視覚的に図面の判別しながら、目的の図面を画面に呼び出すことができます。



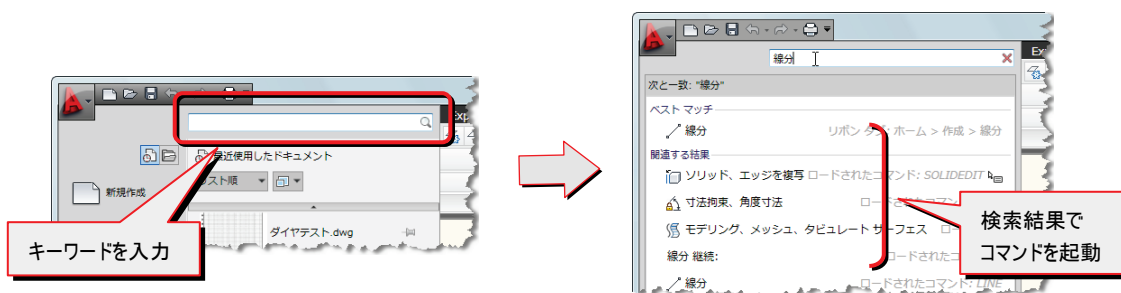
[最近使用したドキュメント] として表示される図面ファイル名の数は、既定値で 9 です。この値は、[オプション] ダイアログの [開く/保存] タブから、0 から 50 までの値を使って変更することもできます。



アプリケーション メニューは、[AutoCAD クラシック] ワークスペース使用時にも表示されますが、[AutoCAD クラシック] ワークスペースでは、[ファイル] プルダウンメニュー下部にも [最近使用したドキュメント] 一覧が表示されます。この最大数は 9 で、同じく [オプション] ダイアログで設定を変更することができます。

アプリケーション メニューを使えば、使いたいコマンドを探し出すこともできます。アプリケーション メニュー上部にある "検索メニュー" に検索したいキーワードを入力すると、コマンド名だけでなく、コマンドの紹介メッセージなどを含む関連したコマンドの一覧を表示することができます。

この機能を使えば、たとえコマンド名を忘れてしまっても、目的に応じたキーワードで最終的なコマンドを見つけ出して、そのまま呼び出すことができます。



最初の何文字かしか記憶していないうろ覚えのコマンドは、コマンド名の最初の数文字を入力してから [TAB] キーを押すと、候補を順次閲覧できます (オート コンプリート 機能)。

リボン

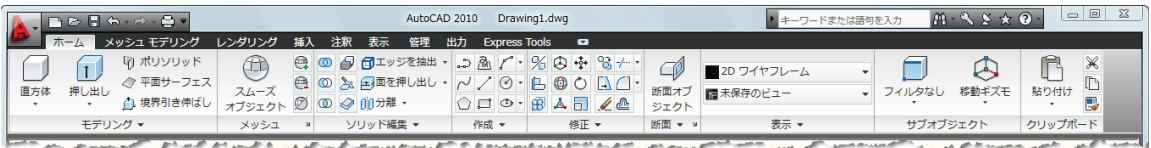
リボンは、**リボン タブ** と **リボン パネル** で構成されています。リボン タブは、2D 設計や 3D モデリングの各過程や目的によって、異なるリボン パネルを含んでいます。リボン パネルには、リボン パネルの目的に応じて、機能別にコマンドが割りつけられています。

AutoCAD 2010 では、2D 製図用に [2D 製図と注釈] ワークスペースを、3D モデリング用に [3D モデリング] ワークスペースを用意しています。使用するワークスペースによって、リボン タブやリボン パネルの内容が異なります。

[2D 製図と注釈] ワークスペースの [ホーム] リボン タブ



[3D モデリング] ワークスペースの [ホーム] リボン タブ

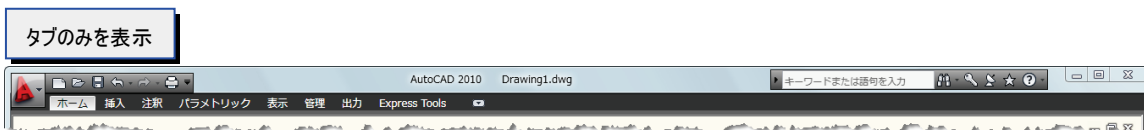
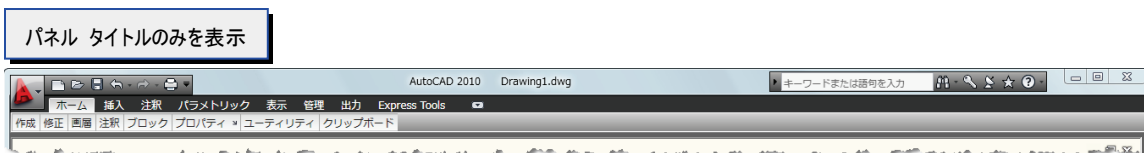


通常、リボンは、AutoCAD ウィンドウ上部にドッキングさせて利用しますが、ドッキングを解除して浮動状態にしたり、左右に縦にドッキングしたりして使用することができます。浮動状態では、マウスカーソルが離れるとタイトルバーだけの表示になる “自動的に隠す” 機能や、左右にドッキングした状態で “自動的に隠す” アンカー機能を使うこともできます。

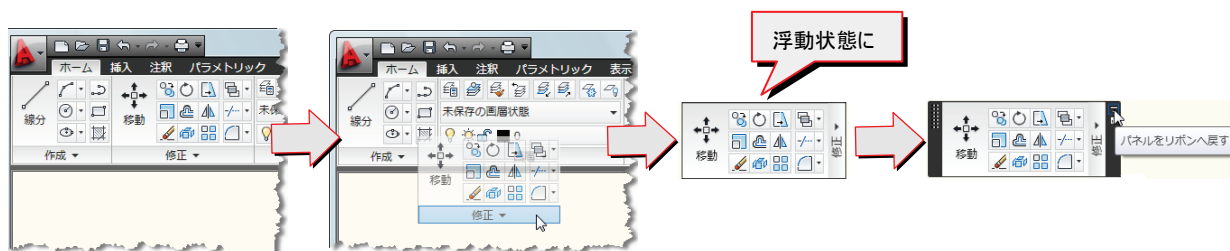


リボン、さらにさまざまな形態で利用することができます。上部にドッキングした状態では、▼ ボタンをクリックするたびに、パネル タイトルのみを表示 → リボン全体を表示 → タブのみを表示 の状態を変化させることができます。

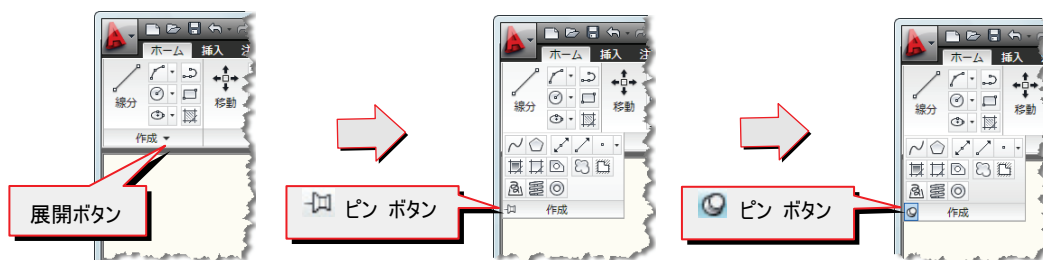
パネル タイトルのみを表示 と タブのみを表示 の状態では、マウス カーソルを近づけるとリボンが展開されるようになります。



リボン パネルは、単独でも浮動状態にすることができます。リボン パネルのタイトルをマウスの左ボタンで、浮動させたい場所にドラッグするだけです。逆にドッキングさせる場合は、[リボンへ戻す] ボタンを使うか、ドッキングしたリボン上にドラッグ&ドロップすれば実行できます。



また、折りたたまれて非表示になっている部分を持つリボン パネルもあります。このようなリボン パネルは、リボン パネルのタイトルの右下に ▲ ボタンが表示されています。このボタンをクリックすることで、折りたたまれていた部分を展開表示できます。展開表示された部分は、マウス カーソルがそれると、自動的に元に折りたたまれます。常に表示させたい場合は、パネル右下の ピン ボタンをクリックします。

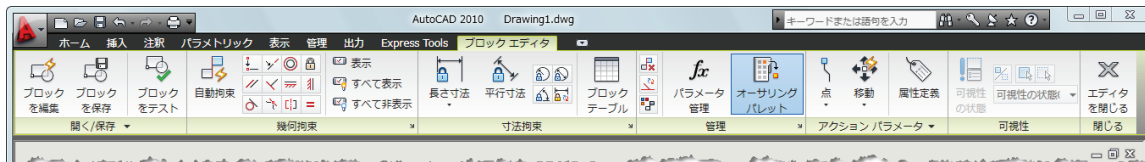


コンテキストリボン

リボンには、特定のコマンドを実行したときや、特定のオブジェクトを選択したときだけ表示される状況依存型の **コンテキスト リボン タブ** が存在しています。前者は、次の機能で表示されます。なお、後者は、後述する [ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログを使って、自由にカスタマイズすることができます。

ブロック エディタ

BEDIT[ブロック エディタ] コマンドを実行して、ブロック エディタを起動したときのみ表示されます。通常、使用しているリボン タブの右側に表示されるので、オブジェクトの作図や編集のリボンを使いながらブロックを定義することができます。



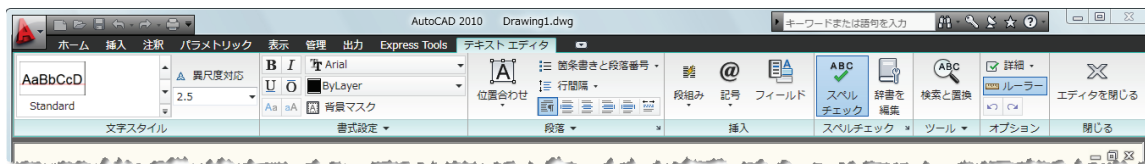
参照編集エディタ

REFEDIT[インプレイス参照編集] コマンドを実行して、参照編集エディタを起動したときのみ表示されます。ブロック エディタと同じように、通常、使用しているリボン タブの右側に表示されるので、オブジェクトの作図や編集のリボンを使いながらソース図面を編集することができます。

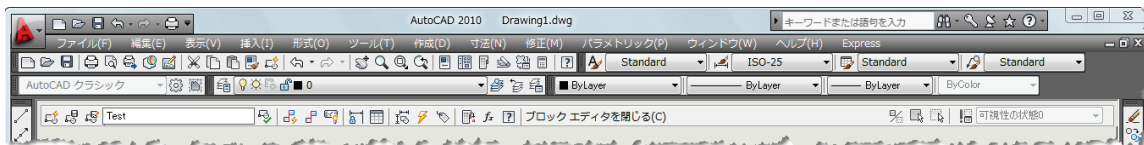


マルチ テキスト エディタ

MTEXT[マルチ テキスト] コマンドと TABLE[表を挿入] コマンドでマルチ テキスト オブジェクトの編集時に表示されます。表オブジェクトのセルをダブルクリックして編集する際にも表示されます。

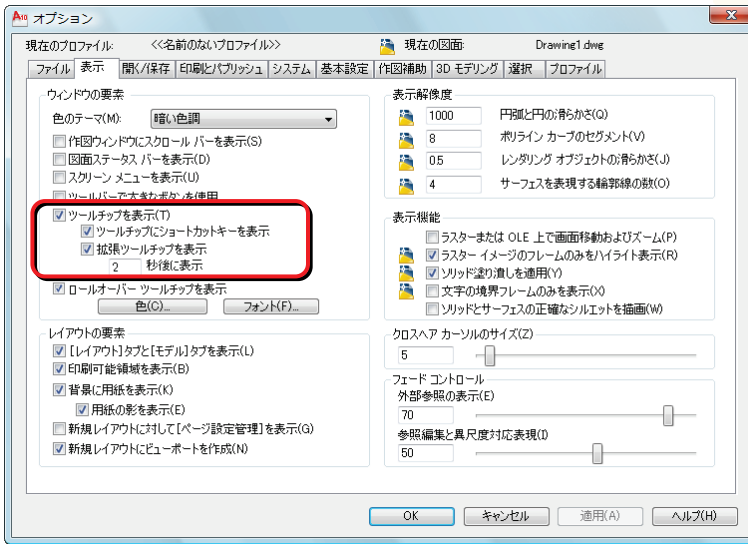


リボンを表示しない [AutoCAD クラシック] ワークスペースでブロック エディタを起動すると、ドッキング ツールバータイプ(AutoCAD 2006~2008 時)のブロック エディタが表示されます。参照編集エディタも同様に、AutoCAD の自動判断で [インプレイス参照編集] ツールバーを表示します。ただし、マルチ テキスト エディタは、システム変数 MTEXTTOOLBAR と TABLETOOLBAR で旧タイプのツールバーを表示することができます。



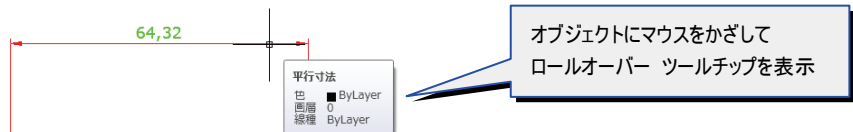
ツールチップ

ツールチップも改良されています。いままで、ツールバー ボタンなどにマウスカールをかざすと、簡単な説明が表示されるだけでした。AutoCAD 2009 以降、より分かりやすくボタンの機能を理解できるように、**セカンド ステージ ツールチップ** と呼ぶ 2 段階のツールチップ表示をサポートしています。セカンド ステージ ツールチップは、簡単な紹介 → 詳細な紹介 の順で時間をおいて表示させることができます。セカンド ステージ ツールチップは、リボン、ツールバー、メニュー ブラウザ上で利用することができます。



既定では、最初のツールチップが表示されてから 2 秒経過すると、詳細な紹介を表示する **拡張ツールチップ** を表示します。拡張ツールチップの表示までの時間や、表示をおこなうかの設定は、**OPTIONS**[オプション] コマンドで表示されるダイアログの、**[表示]** タブで指定することができます。

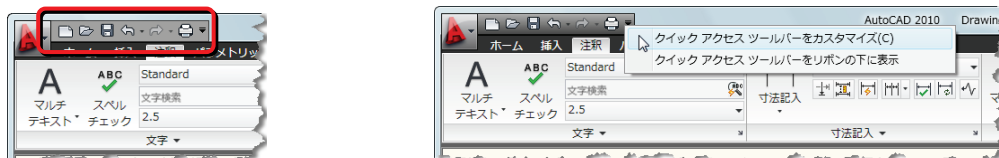
また、**ロールオーバー ツールチップ** と呼ばれる新しいツールチップも導入しています。ロールオーバー ツールチップは、図面上のオブジェクトにマウスをかざすことで、オブジェクトのプロパティを表示します。ツールチップにどのプロパティを表示させるかは、**CUI**[ユーザ インターフェイスをカスタマイズ] コマンドで指定することができます。また、ツールチップ自体の表示/非表示の設定は、セカンド ステージ ツールチップの設定と同じように、**[オプション]** ダイアログで行うことができます。



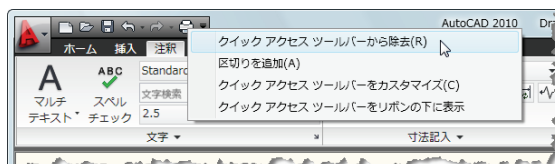
クイック アクセス ツールバー

クイック アクセス ツールバーは、頻繁に使うコマンド ボタンが割り付けられていて、図面を開いたり、図面を上書き保存したりすることができるようになっています。

また、クイックアクセス ツールバー上でマウスの右ボタンをクリックすることで、コンテキスト メニューから "クイック アクセス ツールバーをカスタマイズ" を選択することができます。カスタマイズ時には [ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログが表示されるので、ダイアログ上のコマンドをクイック アクセス ツールバー上にドラッグ&ドロップすることで、好きなコマンド ボタンを追加できます。

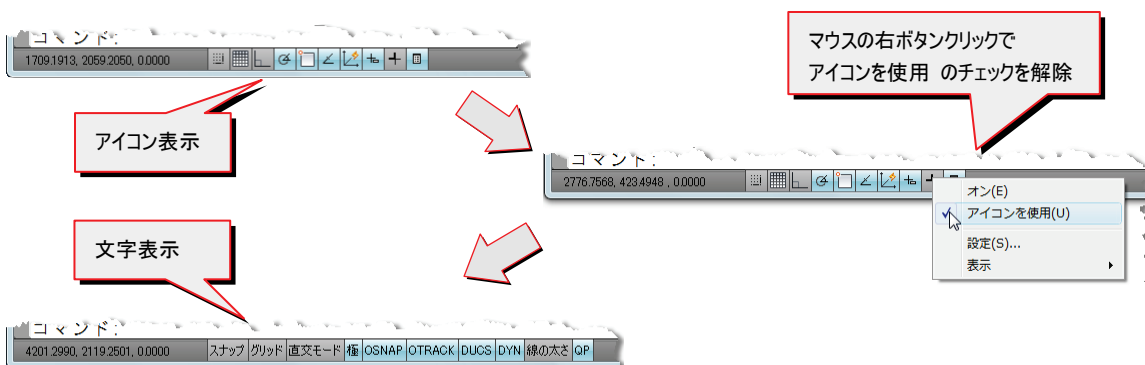


クイック アクセス ツールバーから、コマンド ボタンを除去する際には、除去したいボタン上でマウスの右ボタンをクリックして、"クイック アクセス ツールバーから除去" を選択することで、ボタンを除去することができます。

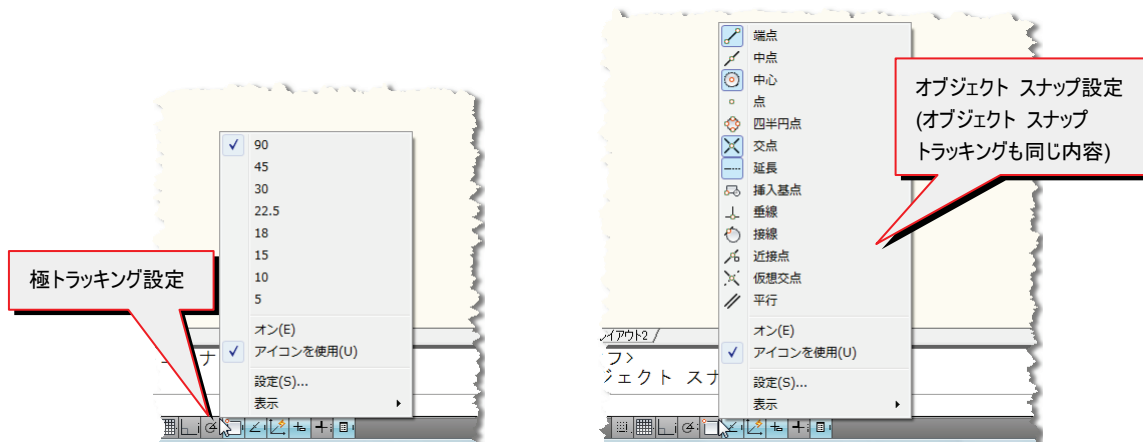


ステータス バー

ステータス バーに配置されているボタンにも改良が加えられています。ステータスバー左下に配置されている [グリッド] や [OSNAP] などの文字ボタンが、アイコン ボタンに置き換わっています。もちろん、設定を変更することで、従来のボタン表示に切り替えることもできます。



また、アイコン ボタン、文字ボタンのいずれの場合でも、極トラッキング、オブジェクト スナップ、オブジェクト スナップ トラッキングの設定を視覚的に変更できるように工夫されています。これらの設定は、それぞれのボタン上でマウスの右ボタンをクリックして呼び出します。




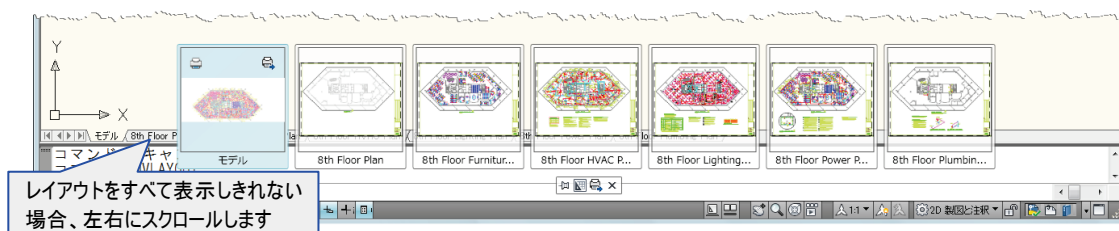
一方、ステータスバー左下のボタンも新機能の追加を含めて刷新されています。特に、ワークスペースの切り替えボタンや、スクリーンの最大化ボタンは便利です。



クイックビュー レイアウト


現在編集中の図面に含まれている レイアウトのプレビュー イメージを視覚的に表示させて、編集したいレイアウトをクリックすることで画面に呼び出す機能です。いままでの AutoCAD では、内容の確認を事前におこなうことができず、[モデル] タブ や [レイアウト1] タブなどを使って切り替えをおこなっていましたが、クイック ビュー レイアウトを使えば、レイアウトの切り替え前にレイアウトの内容を把握できます。

クイック ビュー レイアウトは、ステータスバーの  ボタンで呼び出すことができます。



クイックビュー 図面

現在開いているすべての図面のプレビュー イメージを視覚的に表示させて、編集したい図面をクリックして画面に呼び出す機能です。また、各図面のプレビュー イメージ上には、クイック ビュー レイアウトのプレビュー イメージも同時に表示されるので、編集した図面のレイアウトをワンクリックで呼び出すことができます。

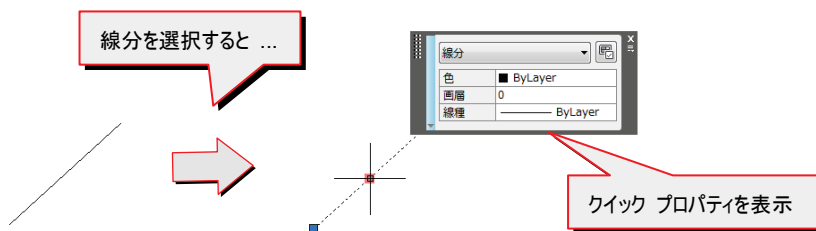
クイック ビュー 図面は、ステータスバーの  ボタンで呼び出すことができます。



クイック ビュー レイアウト、クイック ビュー図面ともに、プレビュー イメージが表示されている状態で、[Ctrl] キーを押しながらマウス ホイールを前後させると、プレビュー イメージのサイズを大きくしたり、小さくしたりすることができます。

クイック プロパティ

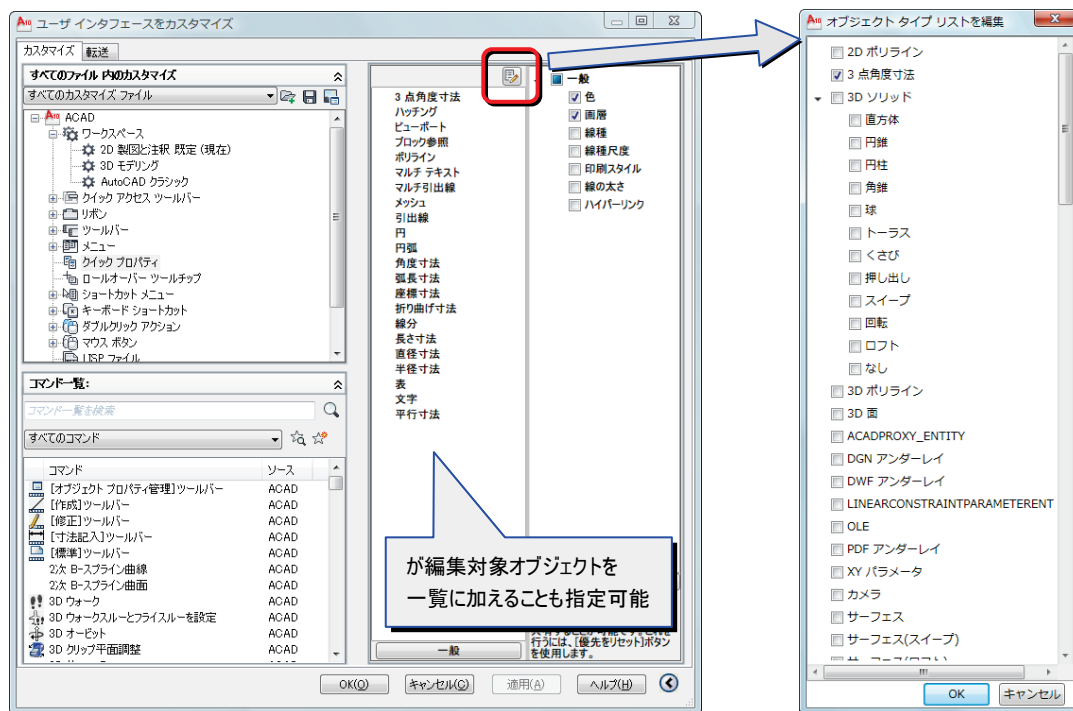
オブジェクトを選択した際に、[プロパティ管理] パレットよりも小さなサイズのウィンドウを表示して、プロパティ編集することができます。ので、比較的サイズの大きい [プロパティ管理] パレットを表示し続ける必要はありません。



クイック プロパティを使用するかどうかは、ステータスバー左下のボタンでコントロールすることができるので、必要のない場面では、簡単にオフにすることが可能です。

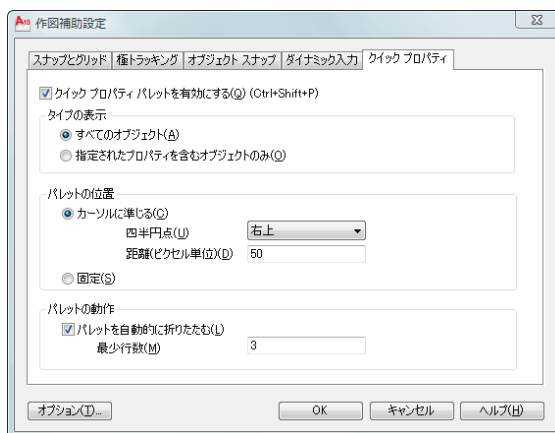


表示するプロパティ項目は、オブジェクトの種類ごとに [ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログ ボックスで編集することができます。このため、CUI[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] コマンドには、“クイック プロパティ” の項目が新設されています。



また、AutoCAD API の 1 つである ObjectARX で定義したカスタム オブジェクトに対しても、そのアドオン アプリケーションが対応していれば、クイック プロパティを指定することができます。

既定では、プロパティの表示位置は、マウス カーソルの右上に設定されています。この表示位置やウィンドウの表示サイズなどは、DSETTINGS[作図補助設定] コマンドで指定することができます。



パーソナライズ（ユーザ インタフェースのカスタマイズ）

ユーザ インタフェースの表示位置やキーボード ショートカットなどは、設計者によって好みや習慣が異なります。AutoCAD は、これらを容易なカスタマイズでカバーします。このように、設計者に合わせた環境の整備を **パーソナライズ** と呼んでいます。それでは、AutoCAD のパーソナライズを見ていきましょう。

ユーザ インタフェース

AutoCAD のメニュー カスタマイズでは、すべてのメニュー項目をダイアログ ボックス上の操作でおこなうことができます。以前のように、メニュー定義ファイルを直接テキスト エディタで修正する必要はありません。現在、この方法で編集可能なメニュー項目には、次の項目があります。

ワークスペース	[ユーザインタフェースをカスタマイズ] ダイアログで設定可能なすべてのユーザ インタフェースに名前と付けて登録したり、呼び出したりする単位。
クイック アクセス ツールバー	タイトルバー上に配置されたツールバー。よく利用するコマンド ボタンの追加と削除。
ツールバー	Windows で一般的なコマンド ボタンを配列した小さなウィンドウ。このツールバーを自由にカスタマイズ。
メニュー	メニュー ブラウザとプルダウンメニューからアクセス可能なコマンドの配列。メニュー構成をカスタマイズ。
リボン	リボン タブとリボン パネルで構成されるインタフェース。任意のリボン タブを作成して、内包するリボン パネルにコマンド ボタンを配置することが可能。コンテキスト リボンのカスタマイズも可能。
コマンド	ツールバー、メニュー、リボンに配置するコマンド ボタン。アイコン イメージと説明文、実際に実行されるコマンドで構成される。
クイック プロパティ	オブジェクト毎に表示するプロパティの内容をカスタマイズ。
ロールオーバー ツールチップ	オブジェクト毎に表示するプロパティの内容をカスタマイズ。
ショートカットメニュー	オブジェクト選択時の右クリックメニューとその内容のカスタマイズ。
ショートカットキー	キーの組み合わせでどの機能を実行するか、キーボード ショートカットをカスタマイズ。
優先上書きキー	キーの組み合わせで、一時的にオブジェクト スナップなどの機能を有効にするためのキーボード ショートカットをカスタマイズ。
ダブルクリック アクション	オブジェクトをダブルクリックした時の振る舞いをオブジェクト毎にカスタマイズ。
LISP ファイル(MNL ファイル相当)	<メニュー関連 AutoLISP >
マウスボタン	マウスボタン割り当てをカスタマイズ。
タブレットメニュー	タブレット メニューのコマンド割り付けをカスタマイズ。
タブレットボタン	タブレット ボタン割り当てをカスタマイズ。
スクリーンメニュー	スクリーン右側にドッキングして使用する、文字ベースのメニュー。DOS 対応時の旧タイプメニュー。
イメージタイトルメニュー	スライド イメージを表示するタイトルメニュー。

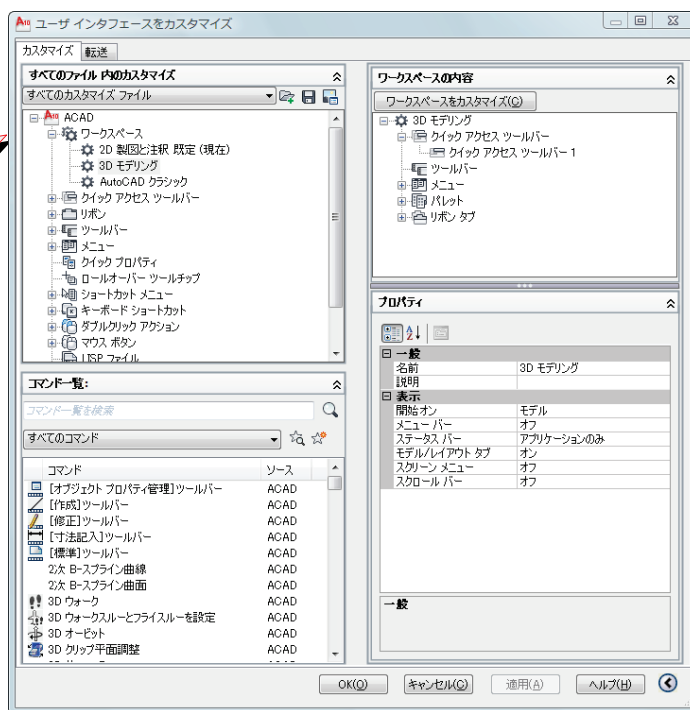


AutoCAD 2006 以降、メニュー定義は .mnu ファイルではなく、XML ファイル形式の .cui ファイルにメニュー定義情報が保存されるようになりました。また、AutoCAD 2010 では、更にカスタマイズしたビットマップ イメージなどを定義ファイル内に埋め込むことができる、.cuix ファイルにファイル形式を更新しています。メモ帳などのエディタを使った .cuix ファイルの手作業による修正はサポートされません。

[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログボックス

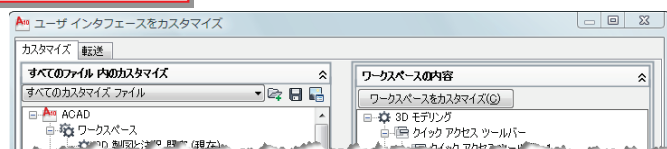
ユーザ インタフェースをカスタマイズするためのダイアログボックスは、CUI[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] コマンドで表示させることができます。

ダイアログ内は、設定の種類別にて領域が分かれています。この領域を“ペイン”と呼びます。右の赤枠は、個別のペインです。



ここで表示される [ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログボックスには、**カスタマイズ** と **転送** の 2 つのタブが提供されています。タブは、それぞれ、次の機能を担っています。

[カスタマイズ] タブ



- 各メニュー項目の追加と編集
- ワークスペースの作成と、ワークスペース別のメニュー項目の表示状態の指定
- 部分メニューのロードとロード解除

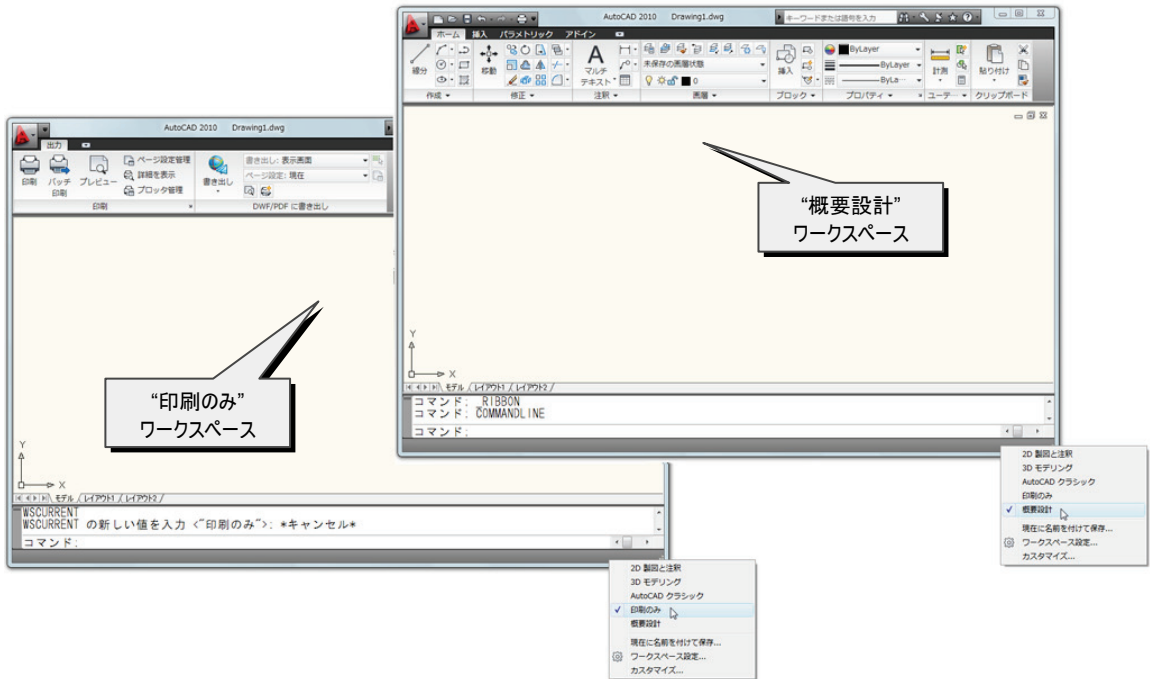
[転送] タブ



- .cuix ファイルの新規作成
- 別のメニュー ファイルからのメニュー項目の転送
- 旧メニュー(.mnu、.mns、.cui) からのメニュー項目の転送

ワークスペース

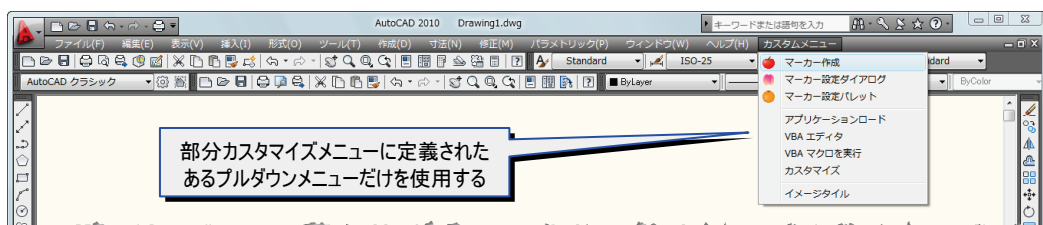
ユーザ インタフェースのカスタマイズでは、ワークスペース と呼ばれる機能を利用することができます。ワークスペースは、ツールバーやプルダウンメニュー、ツールパレットなどの表示状態を複数パターン記憶する機能を提供します。設計フェーズや図面のタイプなどによって、設計者は最も適したユーザ インタフェースの組み合わせを、ワークスペースとして即座に呼び出すことができます。ワークスペースの作成や編集も、[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログ ボックスでおこないます。



ワークスペース登場以前は、このようなユーザ インタフェースの切り替えをプロファイルでおこなってきました。AutoCAD 2010 でもプロファイルによる切り替えは可能ですが、ワークスペースの登場により、将来プロファイルでのユーザ インタフェース切り替えをサポートしなくなる可能性があります。オートデスクは、早い段階でのワークスペースへの移行を推奨しています。

メイン カスタマイズ ファイルと部分 カスタマイズ ファイル

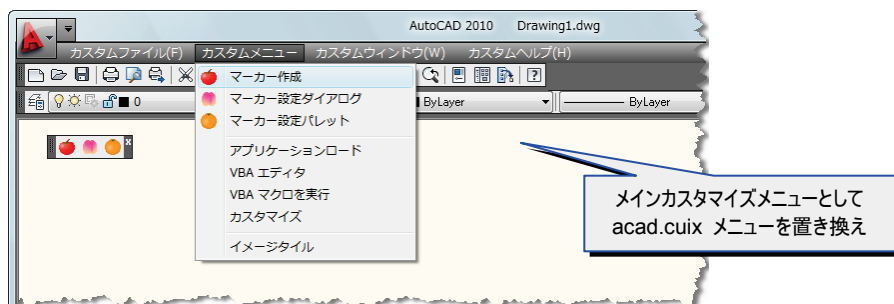
メイン カスタマイズ ファイル(.cuix) は、AutoCAD に標準インストールされるメニューで、1 つのファイルで構成されています。ユーザ インタフェースのカスタマイズでは、このメイン カスタマイズ ファイルに、他の .cuix ファイルを一部に挿入して使う“部分 カスタマイズ ファイル”(部分メニュー) をカスタマイズの選択肢にもつことができます。これによって、AutoCAD の標準メニューにプラスして、カスタマイズした部分のメニューを追加して使えます。部分メニューのロードも、[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログ ボックスでおこないます。



一方、AutoCAD 標準のメイン カスタマイズ ファイル(acad.cuix) そのものを置き換えてしまうこともできます。AutoCAD を API カスタマイズとともに専用システム化してしまう場合などは、この方法を選択すると、まったく独自のメニュー構成を構築することができます。

メイン CUI ファイルの切り替えは、後述の [オプション] ダイアログで指定するか、MENU[メニュー設定]コマンドでおこないます。.cuix ファイルのほかに、旧形式のメニュー(.cui、.mnu、.mns) ファイルを指定した場合は、自動的に .cuix に変換されて表示されます。

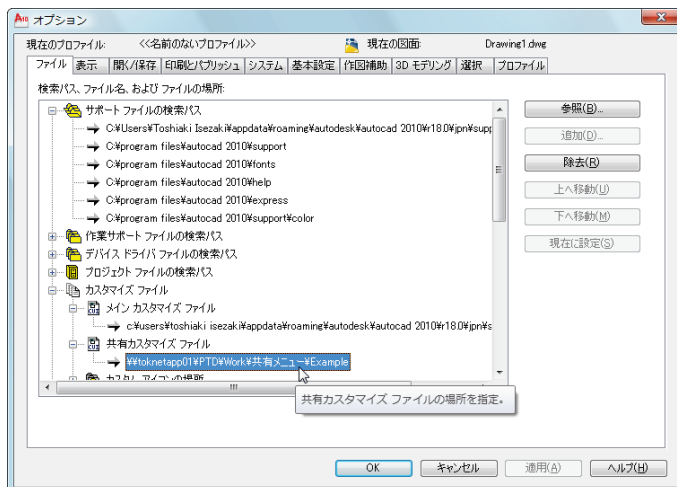
部分カスタマイズ メニューには、ツールバー、プルダウンメニュー、リボンなどの代表的なインタフェースも定義することができ、それぞれ、メイン カスタマイズ メニューから呼び出すことができます。ただし、ワークスペースについては、メイン カスタマイズ ファイルが優先されるので、部分カスタマイズ ファイルに定義されたワークスペースは無視されます。



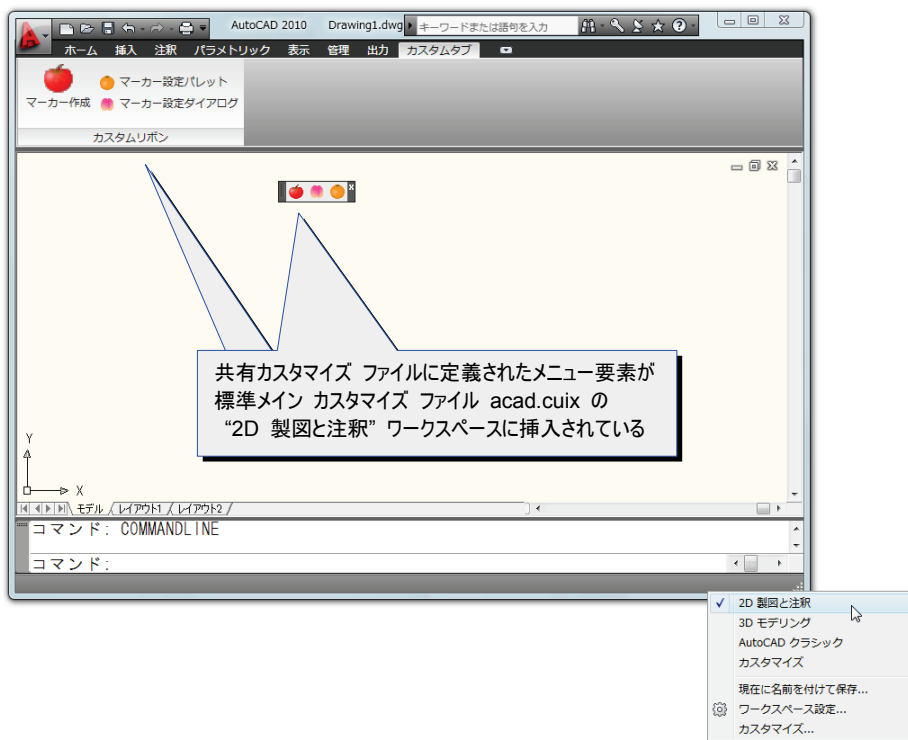
メイン CUI ファイルと共有 CUI ファイル

設計部門では、すべての設計者に共通したカスタマイズ ファイル(.cuix) ファイルを使用させるケースがあるかもしれません。ただ、ダイアログボックス操作でカスタマイズが容易になった現在では、共通メニューさえも内容が自由に変更されてしまう危険性があります。事実、共有サーバー上のフォルダにメインカスタマイズ ファイルを保存して使用すると、OS のフォルダ/ファイル アクセス権限があれば、その内容を変更することができます。

この問題を解決するために、AutoCAD は、共有 カスタマイズ ファイルを読み込み専用で利用させる機能を提供しています。[オプション] ダイアログの "カスタマイズ ファイル" では、共有して利用する CUIx ファイルを直接設定できるようになっています。

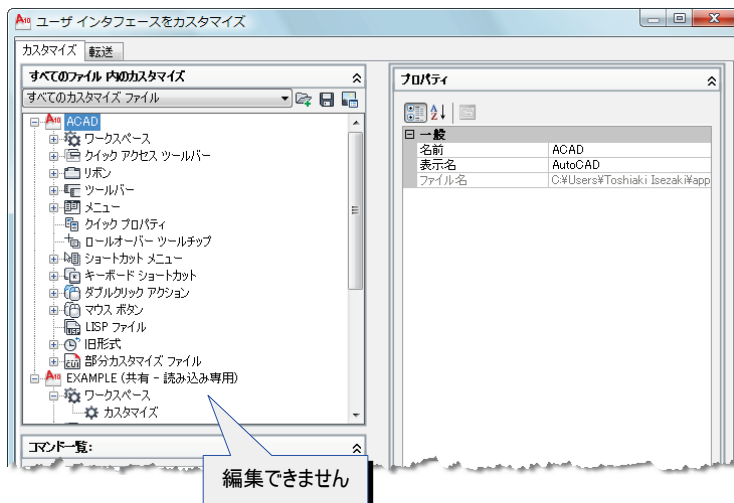


サーバー上に保存した .cuix ファイルを "共有カスタマイズ ファイル" に指定すると、そのファイルに定義されているメニューやリボン、ツールバーは、部分 カスタマイズ ファイルのようにメイン カスタマイズ CUI ファイルに挿入されるかたちで利用することが可能になります。



共有 カスタマイズ ファイルの指定は、[オプション] ダイアログでのみ可能です。[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログでは、内容を確認できますが、共有カスタマイズ ファイルが含む内容の修正はできません。

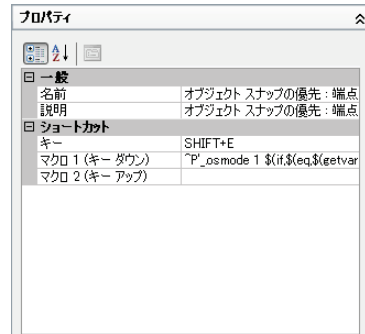
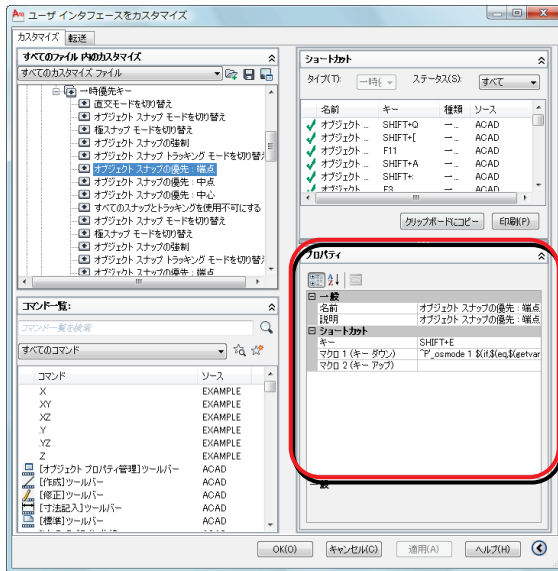
共有カスタマイズ ファイルに定義できる要素はメイン カスタマイズ ファイルと同等の内容なので、単純にメイン カスタマイズ ファイルをサーバーにコピーして、メイン カスタマイズ ファイルのパスを削除して、同じパスを 共有カスタマイズ ファイル のパスへ指定すれば、完全に読み取り専用の CUI ファイルを実現できます。管理者には有効な機能です。



一時優先キー

一時優先キーは、オブジェクト スナップなど、作図中に定時オブジェクト スナップとして設定されていないスナップ機能を、一時的に有効にして利用するための機能です。

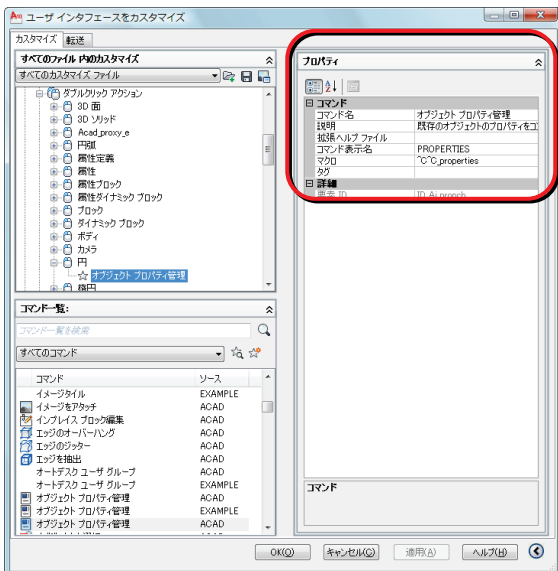
このショートカットキーを使うと、たとえば、定時オブジェクト スナップの設定で“端点スナップ”が“オフ”の状態で作図を始めていても、**Shift+E** のキー操作で、一時的に端点スナップを“オン”にして、作図中のオブジェクトを既存のオブジェクトの端点にスナップすることができます。



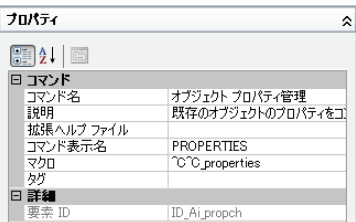
オブジェクト スナップ以外にも、作図中に **Shift** キーで直交モードを切り替えたり、**F12** キーでダイナミック入力を切り替えたりするなど、単一のキーやファンクション キーに機能を割り当てることができます。

ダブルクリック アクション

ダブルクリック アクションは、線分や円など、作図済みのオブジェクトをマウスの左ボタンでダブルクリックした際の振る舞いをカスタマイズする機能です。既定値の **AutoCAD** の振る舞いでは、オブジェクトのダブルクリックで、オブジェクトの特性を変更できるようにプロパティ パレットが表示されます。




これは、オブジェクトに “**PROPERTIES**” コマンドが関連付けられているためです。

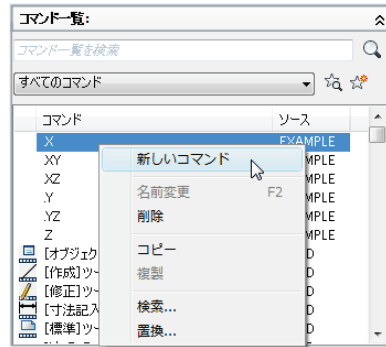


ダブルクリック アクションのカスタマイズでは、オブジェクトごとに関連付けるコマンドを変更することができます。たとえば、円オブジェクトに “**CIRCLE**” コマンドを割り当てると、円をダブルクリックした際に、**CIRCLE** コマンドが実行されて、円の作図を始めることができます。

新しいコマンドの追加

[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログで言う“コマンド”は、プルダウンメニューやツールバーに配置する実行の最小単位となるメニュー項目のことを指します。メニューには、AutoCAD 標準のコマンドとは別に、API で作成したカスタム コマンドのための“コマンド”を、表示させるビットマップ イメージとともに作成できます。

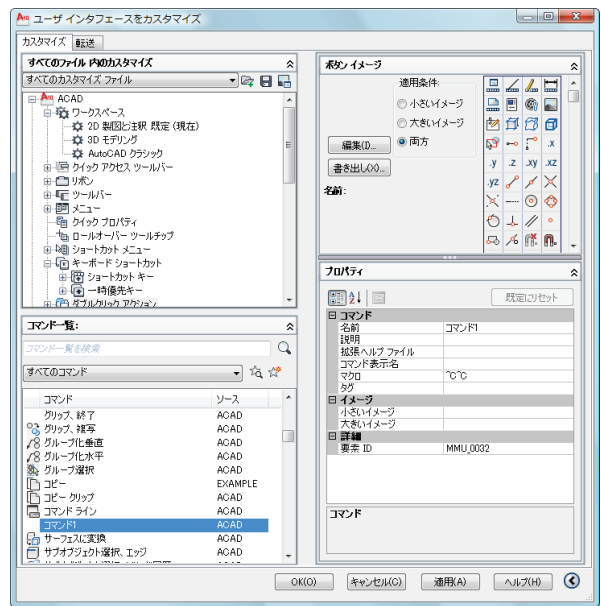
1. [カスタマイズ] タブの [コマンド一覧] ペインの任意の位置で、マウスの右ボタンクリックで“新しいコマンド”を選択するか、新規作成 ボタン  をクリックします。



2. 既定値の“コマンド 1”の名前でコマンドが追加されます。

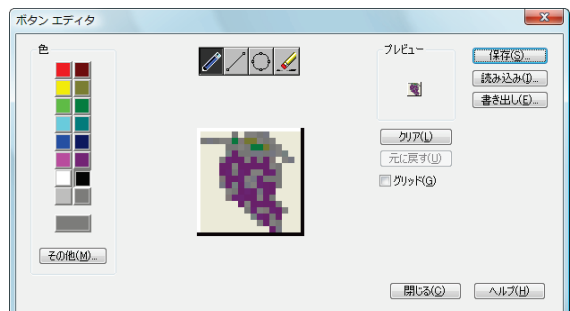
[ボタン イメージ] ペインにコマンドを識別するビットマップ候補や、コマンドを実行したときに実行する内容を指定するための [プロパティ] ペインが表示されます。

“コマンド 1”の名前は、[プロパティ] ペイン上で適切な名前に変更することができます。



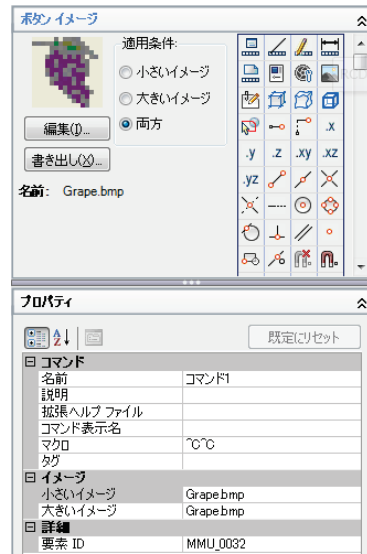
3. “コマンド 1”に関連付けるボタン イメージを指定します。[ボタン イメージ] ペインで既存のイメージを指定します。

任意のイメージを作成する場合は、[編集] ボタンをクリックすると、既定値の内容をクリアして、新しくイメージを作成できます。イメージの作成後には、サポート検索パスのいずれかの場所に [保存] ボタンでイメージを保存しなければなりません。



4. イメージの作成後は、[ボタンイメージ] ペインに表示されるアイコン一覧の一番下に、作成したイメージが表示されます。

そのイメージをクリックすると、[プロパティ] ペインのイメージ欄に、保存したイメージのファイル名が挿入されます。



5. [プロパティ] ペインの“マクロ”の部分に、このメニュー コマンド項目をクリックした際に実行させたい **AutoCAD** コマンドを入力します。

ここでは、コマンド名の先頭に、**^C^C**(キャンセルコード) を挿入しておきます。これで、他のコマンドの実行中にこの項目が実行されても、実行中のコマンドをキャンセルして、確実に指定したコマンドを実行させることができます。



6. 同様に、“説明”欄にコマンドを選択しようとした際に、ステータス バーやツールチップに表示される文字列を指定します。



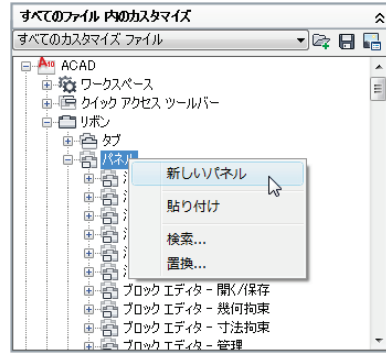
この方法を繰り返して、最終的な実行単位となる“コマンド”(メニュー項目 あるいは ボタン) を、ターゲットとなるメニューやツールバー、ダッシュボーに追加することができます。

メニューやツールバー、ダッシュボーに追加する“コマンド”には、ここで紹介した独自に作成した“コマンド”のほかに、AutoCAD がもともと持っている標準“コマンド”も利用することができます。

新しいリボン パネルの定義とリボン タブへの追加

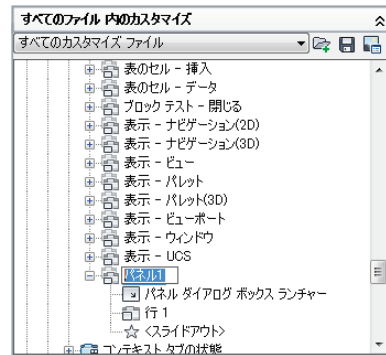
新しく独自のリボン パネルを作成して、“コマンド” ボタンを配置していくことができます。また、AutoCAD 標準の既存のリボン パネルに “コマンド” を追加することもできます。

1. [カスタマイズ] タブにある [すべてのファイル内のカスタマイズ] ペイン上にある“リボン パネル” 上で、マウスの右ボタンをクリックして、“新しいパネル” を選択します。



2. 既定値のリボン パネル名 “パネル 1” が追加されるので、ここで希望する名前を入力します(ここでは既定値を使用)。

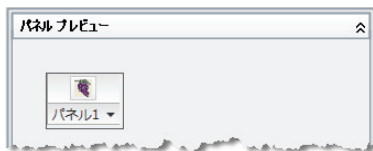
追加されたパネルには、“パネル ダイアログ ボックス ランチャー” と “行 1”、“スライドアウト” が含まれています。



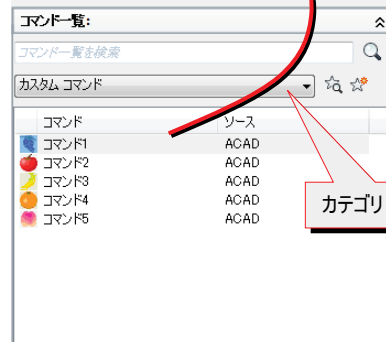
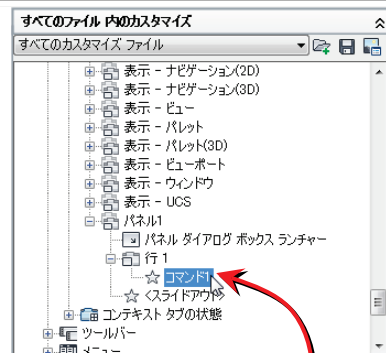
3. [コマンド一覧] ペインから、リボン パネルに追加する “コマンド 1” をドラッグして “パネル 1” 下の “行 1” にドロップします。

ドラッグを終了すると “コマンド 1” が “行 1” の下に表示されます。

パネルの状況は、[パネル プレビュー] ペインの中で確認することができます。現在のプレビューは、下記のような状態です。

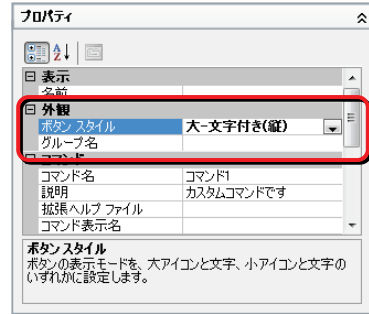
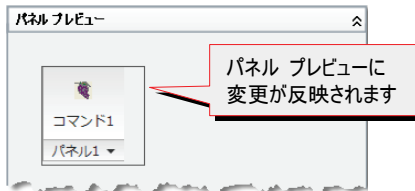


もちろん、AutoCAD の標準コマンドを配置することもできます。コマンド選択時には、コマンドのカテゴリ フィルタを使うと便利です。



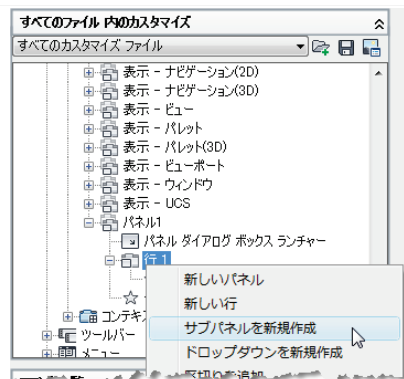
4. “パネル1” に配置した “コマンド1” ボタンの外観を調整します。“コマンド 1” をマウスの左ボタンでクリックすると、ボタンのプロパティが [プロパティ] ペインに表示されます。

ここでは、“ボタン スタイル” を “大 - 文字付き (縦)” に変更します。



5. 次に、“コマンド 1” ボタンの右側に、縦に並んだボタンを 2 つ配置します。“行 1” 内に更に行で分割する必要があるため、サブパネルを挿入します。

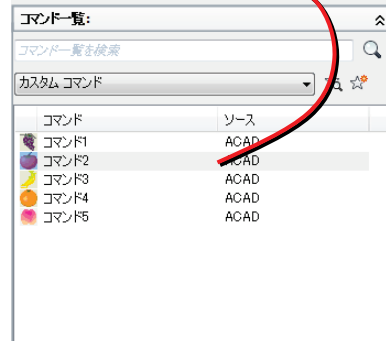
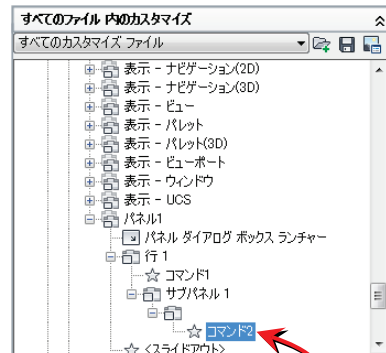
“行 1” の部分でマウスの右ボタンをクリックして、メニューから “サブパネルを新規作成” を選択します。



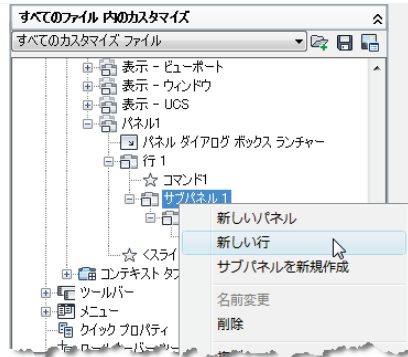
6. 挿入されたサブパネル “サブパネル 1” の下に自動的に行が追加されます。

この行に、[コマンド一覧] ペインから、リボン パネルに追加する “コマンド 2” にドラッグ&ドロップします。

ここでは、配置した “コマンド 2” のプロパティを、既定値のまま使用します。



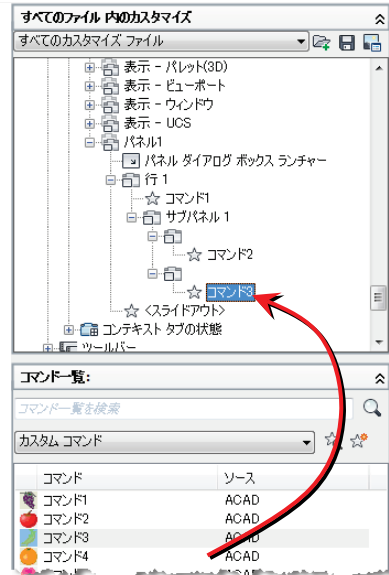
7. “サブパネル 1” 上でマウスの右ボタンをクリックして、メニューから “新しい行” を選択します。



8. 続いて、新しく挿入された行の下に、“コマンド 3” を配置します。

[コマンド一覧] ペインから、“コマンド 3” を挿入した行へドラッグ&ドロップします。

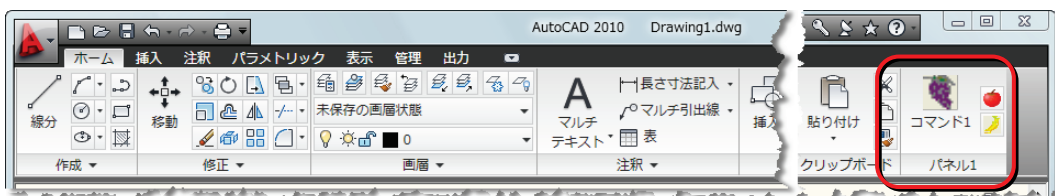
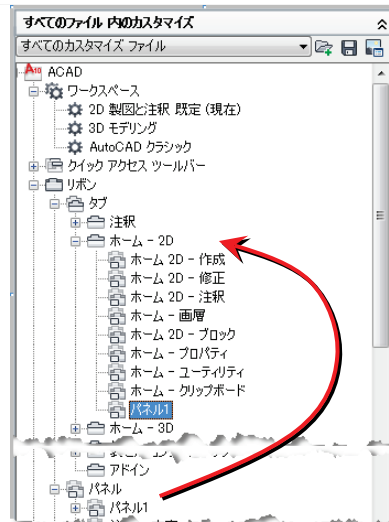
ここでも、配置した “コマンド 3” のプロパティを、既定値のまま使用します。



9. 定義した “パネル 1” リボン パネルを、[2D 製図と注釈] ワークスペースで表示される “ホーム” リボン タブに追加します。

“パネル 1” リボンパネルを、同じ [すべてのファイル内のカスタマイズ] ペイン内にある、“リボン タブ” 下の “ホーム - 2D” リボン タブにドラッグ&ドロップします。

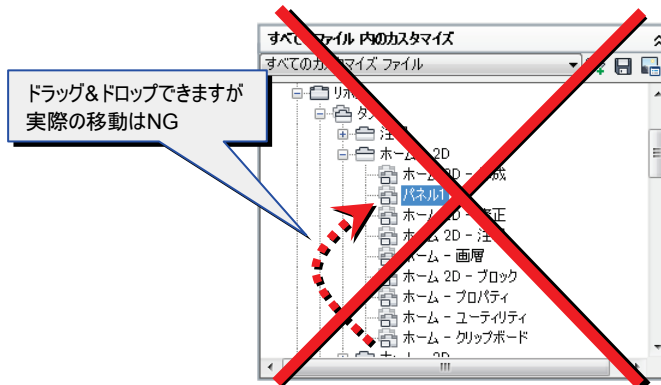
[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログを [OK] ボタンで終了すると、追加したリボン パネルを確認できます。





新しく作成したリボン パネルをリボン タブに追加しても、タブ内のパネルの表示位置を指定するわけではありません。

たとえば、[すべてのファイル内のカスタマイズ] ペインで、特定のリボン タブ の範囲でパネル名をドラッグ&ドロップで位置変更しても、その位置は実際の表示位置には反映されません。表示位置を変更するには、ワークスペースをカスタマイズする必要があります。詳細は、**ワークスペースの編集** を参照してください。

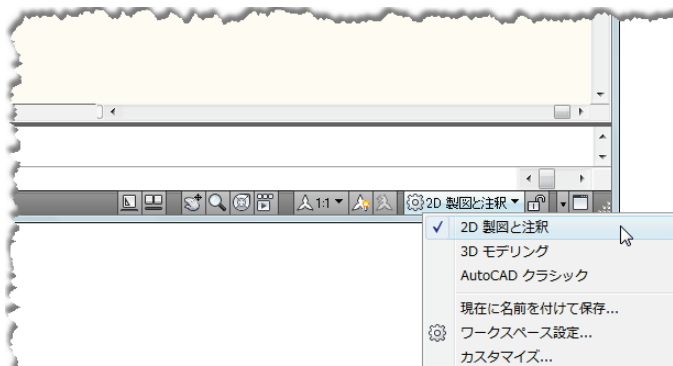


ワークスペースのカスタマイズ

ワークスペースは、リボン、メニュー、ツールバー、ツールパレットなどの表示状態の組み合わせを登録して、呼び出すための機能です。ワークスペースは、任意に付けた名前で区別されるので、さまざまな設計フェーズや目的にあわせて、最適なユーザ インタフェースの構成を定義することができます。

AutoCAD 2010 は、従来のユーザ インタフェース形態を持つ "AutoCAD クラシック"、リボンを利用してテキスト文字や寸法を中心に異尺度を持つ 2D 作図をおこなう "2D 製図と注釈"、同じくリボンを使用して 3D でのコンセプト デザインをおこなう "3D モデリング" の 3 つのワークスペースが標準で用意されています。

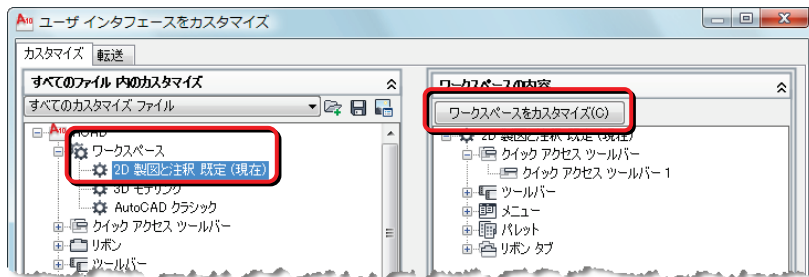
登録したワークスペースを "現在" のワークスペースに設定することで、そのワークスペースが持つユーザ インタフェースの表示状態が呼び出されます。ワークスペースの切り替えは、ステータスバー右下に表示されるボタンでおこないます。



ワークスペースの編集

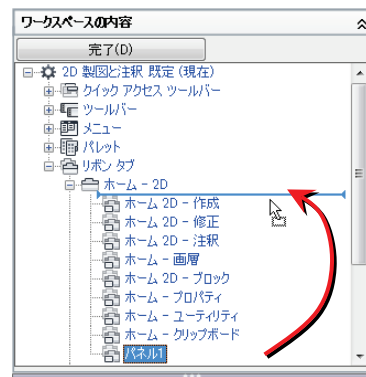
ワークスペースは独自に作成できるほか、既存のワークスペースを編集して、さまざまなインターフェース要素の位置や表示項目を変更することができます。実際の操作は、[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログの [カスタマイズ] タブでおこないます。

1. [すべてのファイル内のカスタマイズ] ペインで編集したいワークスペース名を選択後に、[ワークスペースの内容] ペインの [ワークスペースをカスタマイズ(C)] ボタンをクリックして、ワークスペースの編集モードに入ります。

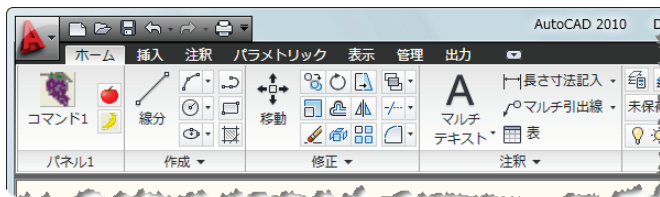


2. ここでは、この前のセクションで追加した“パネル1”の表示位置を変更します。

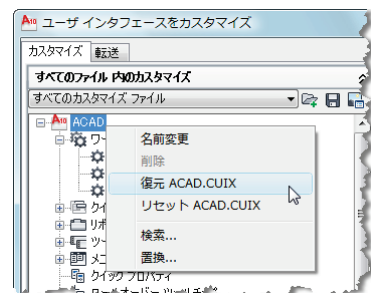
[ワークスペースの内容] ペインで“リボンタブ”を展開表示させて、“ホーム - 2D” リボン タブ内の“パネル1”の位置を、“作成 - 2D” リボン パネルの前にドラッグ&ドロップします。



3. 表示位置を変更したら、[ワークスペースの内容] ペインにある [完了] ボタンをクリックします。次に、ダイアログ下部にある [適用] ボタンでカスタマイズした内容を適用後、[OK]ボタンですべての設定を完了させます。



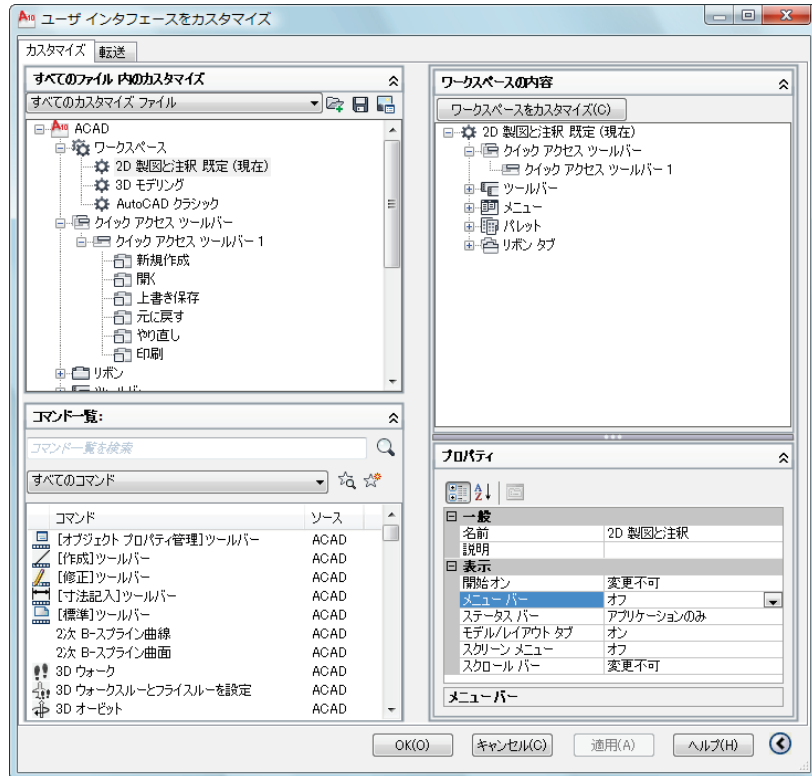
[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログでの編集には、UNDO[元に戻す] コマンドを適用することができません。[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログで編集した直前に戻るには、メニューグループ名を右クリックして“復元 ACAD.CUI”を選択してください。





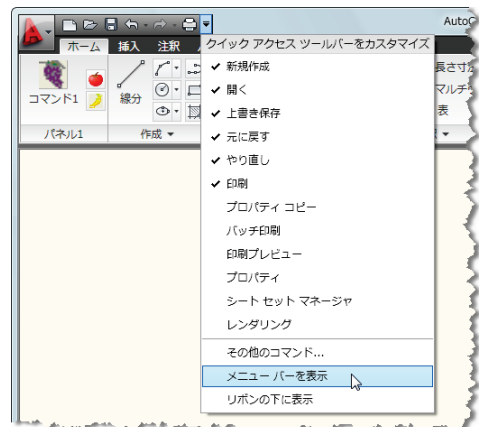
ワークスペースでは、多くのユーザ インタフェースの状態を指定することができます。先に紹介したワークスペースの編集例では、リボン パネルの表示位置を変更しただけですが、このほかにも、パレット形式のインタフェースを表示するかどうか、メニューにどのメニュー項目を含めるか、あるいは、どのリボン タブを含めるか、などを指定することができます。

新しく作成したワークスペースも含めて、ワークスペースに従来のプルダウンメニューを表示するかどうか、ここで指定します。クイックアクセス ツールバーへのコマンド ボタンを追加や削除の操作もおこなうことができます。



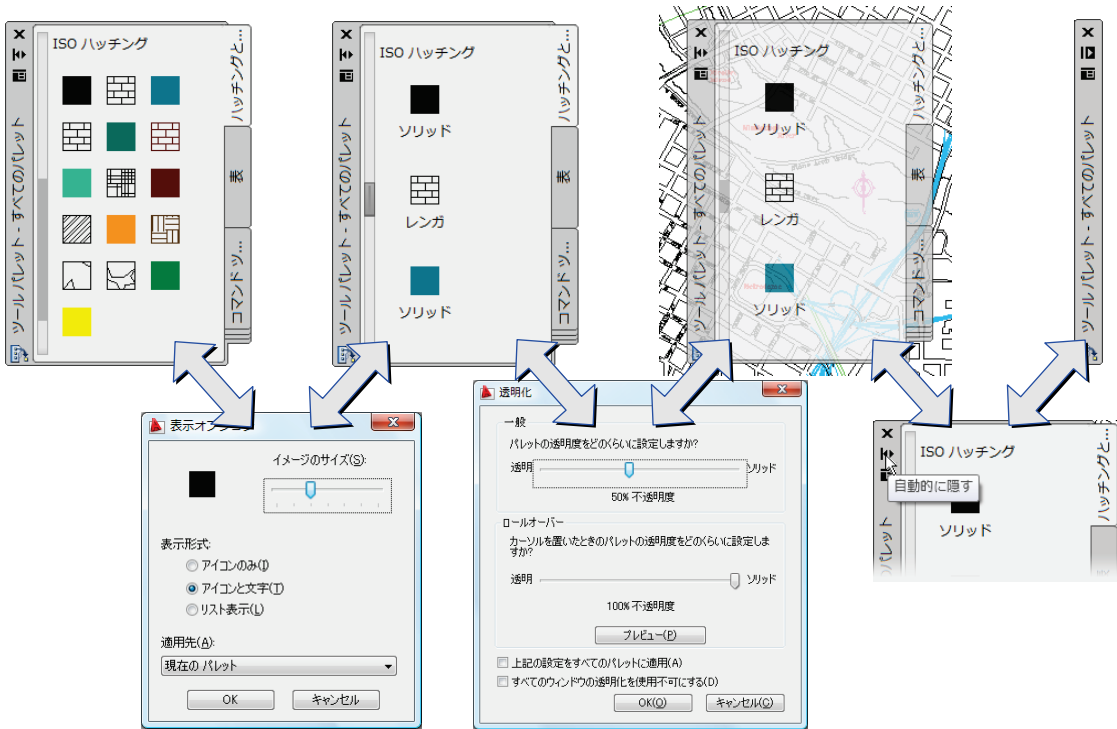
ワークスペースの指定には関係なく、従来のプルダウンメニューを表示することもできます。クイック アクセス ツールバー上で、マウスの右ボタンをクリックすると、「メニュー バーを表示」を指定することができます。

リボンへの移行期にも利用できるもので、既存のユーザには便利な機能です。

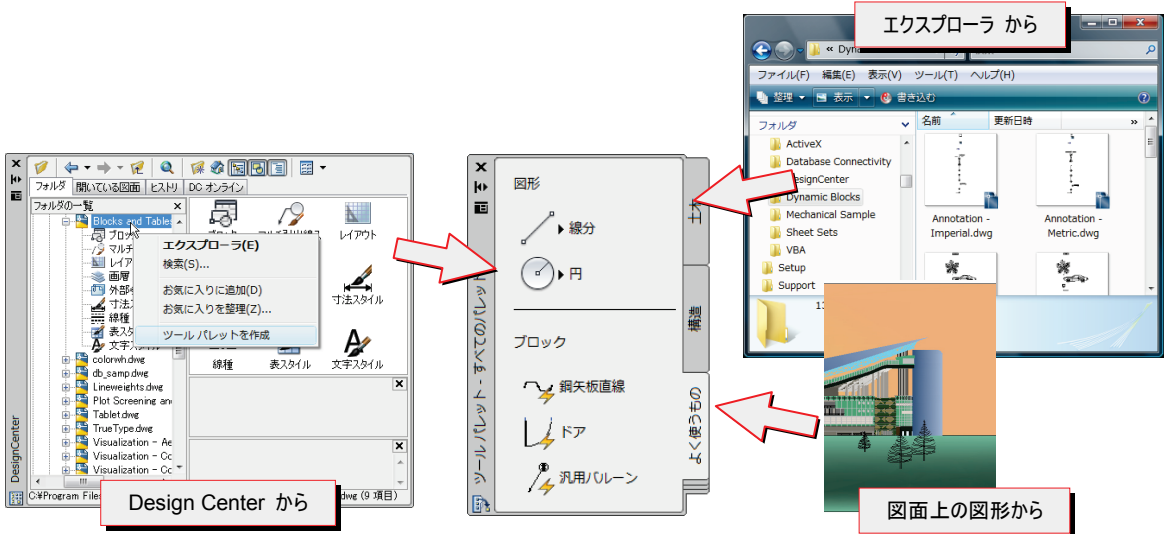


ツールパレット

ツールパレットは、ユーザが頻繁に使用するブロックやハッチングパターン、ラスタ イメージ、また、コマンドを、シングル クリックで簡単に呼び出せるユーザ インタフェースです。登録ツールの表示形式を変更したり、マウスカーソルがパレット上にないときに最小化したりすることができます。また、いつでも透明度を変化させて、半透明な状態にすることもできます。

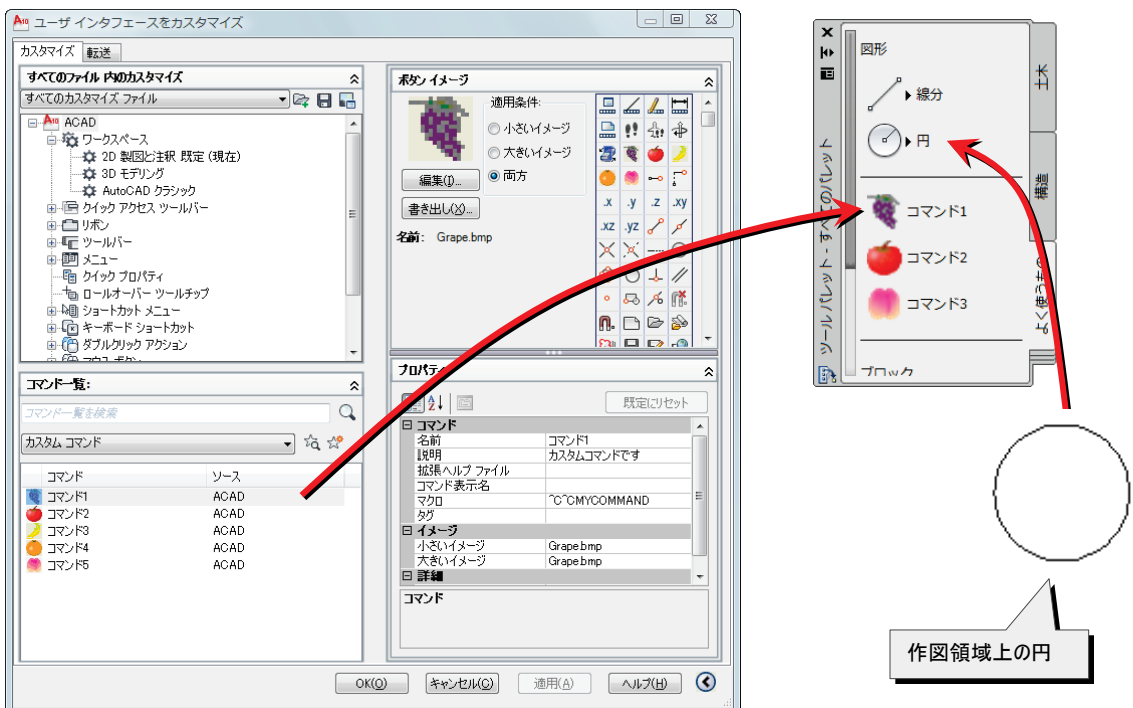


ハッチング、ラスタ イメージ、ブロックなどの図形配置ツールの登録は、簡単なドラッグ&ドロップ操作でおこなうことができます。

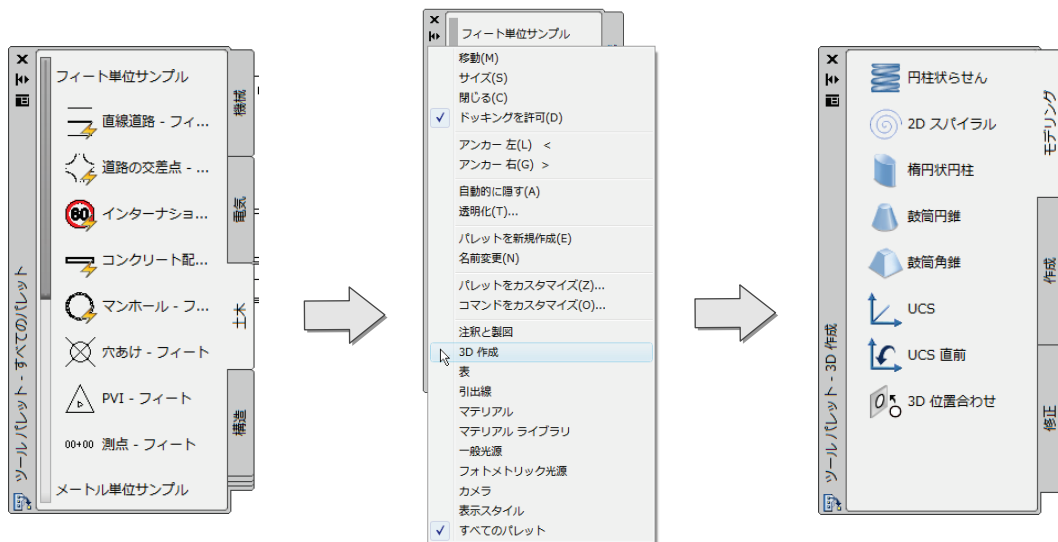


	Windows エクスプローラから	Design Center から	図面上に作画された図形から
ブロック	ドロップした図面をブロックとして登録	ブロック カテゴリからドロップした図面をブロックとして登録	ドロップしたブロックを登録
		指定した図面名でパレットを作成し、図面に含まれるブロック定義をすべて登録	
外部参照	—	外部参照 カテゴリからドロップした図面を外部参照として登録	ドロップした外部参照を登録
ラスター イメージ	ドロップしたラスター イメージを登録	指定したラスター イメージを登録	ドロップしたラスター イメージを登録
ハッチング	—	指定したパターンファイル名でパレットを作成し、ファイルに含まれるハッチングパターン定義をすべて登録	ドロップしたハッチングパターンを登録
2D 塗り潰し / グラデーション	—	—	ドロップした 2D 塗り潰し / グラデーション / ハッチングを登録

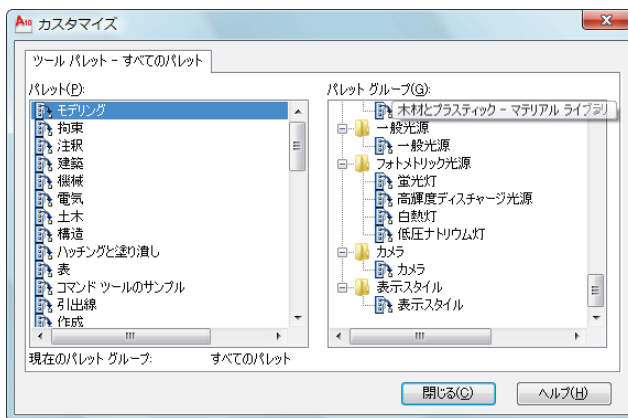
コマンド ツールの登録もいたって簡単です。[ユーザ インタフェースをカスタマイズ] ダイアログの[コマンド一覧] ペインからコマンドをドラッグ&ドロップしたり、図面上に作画されている図形をドラッグ&ドロップしたりして、その図形の作画コマンドをツールとして登録することもできます。



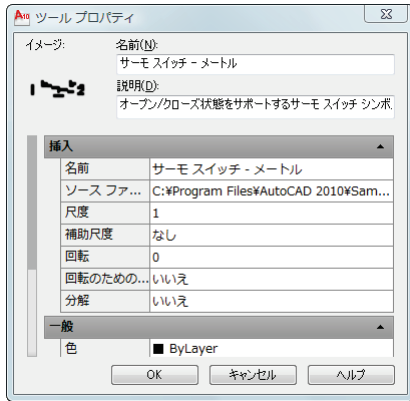
パレットの数が증えすぎてタブ表示が重なってしまう場合は、任意にカテゴリーを作成してタブをグループ化することができます。設計フェーズに合わせたツールパレットの表示切り替えをワンタッチでおこなえます。



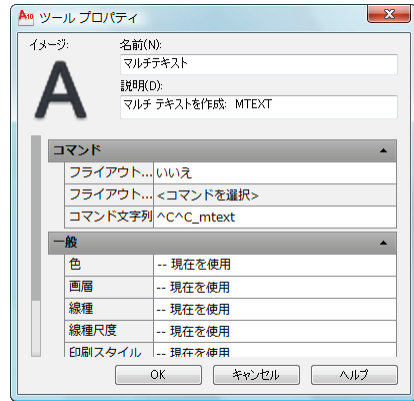
カテゴリーの追加や編集は、CUSTOMIZE[カスタマイズ] コマンドで表示されるダイアログでおこなえます。



ツールバーとの最も大きな違いは、各ツールがインテリジェントな点です。ツールパレットは、図面に図形を配置する際に必要なプロパティを持っているので、ハッチングやブロックの配置時に、尺度や角度、画層などを毎回指定する必要がありません。挿入点の指定だけで配置を完了できます。コマンド ツールの場合も、プロパティを指定しておけば作図する色や線種、画層を先に決めてしまうことができます。

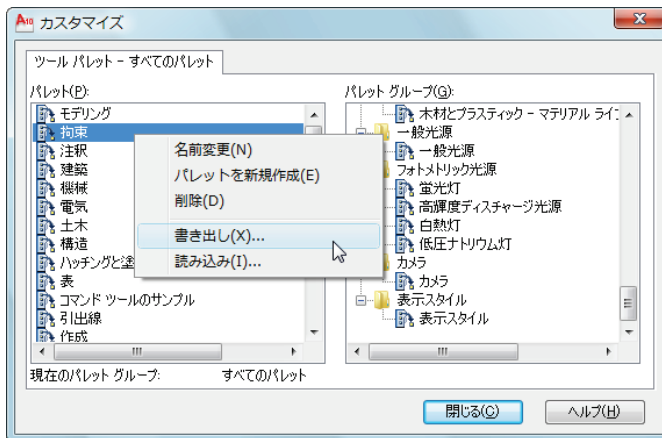


ブロック ツールのプロパティ例



コマンド ツールのプロパティ例

作成したツールパレットは、パレット単位で外部ファイルに書き出したり、読み込んだりすることができます。特定のプロジェクト用に作成したツールパレットを、複数の設計者で共有することもできます。ツールパレット ファイルの書き出しと読み込みは、[カスタマイズ] ダイアログから実行します。



書き出されるツールパレット ファイルは、拡張子 .xtp を持つ XML 形式のファイルです。書き出し時には、この .xtp ファイルと同時に、指定したフォルダ直下に各ツールのイメージ画像を含むフォルダも作成されます。このため、クライアント上に作成した .xtp ファイルを、後から共有サーバー上にコピーして共有利用する際には、.xtp ファイルとイメージ画像フォルダも同時にコピーする必要があります。

また、ツールが参照することになるブロックやラスタイメージのパスにも注意を払う必要があります。ツールは、登録時に参照したブロック(拡張子 .dwg) や ラスタイメージ(拡張子 .jpg、.bmp、.gif など) のファイルへのパスを、ツールプロパティとして記憶しています。あるクライアント上のファイルを参照して作成したツールパレット ファイルを共有サーバーにコピーすると、そのファイルを読み込んで別のクライアント上に復元したツールパレットでは、配置操作時にブロックなどの配置ファイルを見つけれない結果を招きます。

プロフィール

AutoCAD では、[オプション] ダイアログからアクセスできる設定のすべてを、**プロフィール** という単位で記憶しておくことができます。プロフィールの単位は、設計者が任意に作成した名前で識別されます。



設計内容や業務に合わせてオブジェクト スナップなどの作図設定を変えながら作業するのは面倒です。あらかじめプロフィールに何通りかの設定を記憶させておけば、作図環境や検索パスの設定を、瞬時に呼び出して切り替えることができます。プロフィール登録と呼び出しは、**OPTIONS[オプション]**コマンドで表示されるダイアログの [プロフィール] タブで切り替えることができます。

